

中部物流最前線

多くの産業で物流の重要性が叫ばれているのは、物流こそがローストオペレーションの鍵を握っているためで、食品業界でも例外ではない。しかし、高度化する物流課題のクリアと企業活動における利益の確保を両立することは難しい。そんな中で、今や物流センターの存在が欠かせなくなっている。流通経済大学の文献によると、物流センターは「多種大量の商品を供給者から荷受けし、積み換え、保管、仕分け、流通加工、情報加工な

現在の物流業界につ

加藤 当社のような物流企業は6万2000社ほどあります。その中で一般貨物自動車運送事業者が5万

7440社存在しますが、

今、業界における最大の課題は、今後近い将来ドライ

バーが全国で14万人不足することです。この環境下で

現在、川崎をはじめ首都圏で4営業所を手掛けている

どを行い、多数の需要家の注文に応じて品揃えし、配送する重要な物流拠点」と定義付けられている。この「重要な物流拠点」である物流センターの適切な建設計画、合理化、改善をいかに行っていくか、が大きな問題だ。今回の中部物流最前線は、主に物流センター運営への考え方に焦点を当て、総合物流企業・名正運輸の加藤新一社長、小売流通業・ユニーの村井秀紀物流部長からそれぞれの方針を聞いた

(横山卓司)

ますが、首都圏には仕事、職種が多いことを実感しています。しかし、人口もそのぶん多いので、産業に対する人材のバランスを考えると、首都圏は人が循環す

新規の取組みは、群馬で営業所を立ち上げたこと、当地域で生鮮センターの仕事を開始したことです。加えて、沼津で加工食品と酒類のセンターを立ち上げま

物流センターから店舗オペレーターまで

るような仕組みになっているような気がします。一方名古屋を中心とする当地域というのはものづくりが盛んで、特に自動車産業に人材をとられてしまうのが現実です。

貴社の状況は。

加藤 おかげさまで10%ほどの増収でここまでできていますが、人材確保のための求人媒体、雇用後の教育機関のコストが前年に比べて10%以上増えているので、結果的に減益で推移してしまっています。それでも当社はリクルート専用のホームページを作りました。他の業界では多くなっています。新卒学生のほか、リクルートのための専用サイトなどは、他の物流企業はほとんど立ち上げていないと思います。

した。現在、それぞれが順調に稼働しています。今期は4月から3カ所の新営業所の立ち上げを一气に行い、その先行投資も一時的に業績に反映されています。

他社との違い、強み

加藤 当社は通常の3P

名正運輸

社長 加藤新一氏

